



# 染織作家 本郷孝文の仕事

2024年4月27日 | 土 | — 5月6日 | 月 |

会場：高美屋文庫 長野県松本市中央2丁目2-6 高美書店ビル 中2階

開館時間：11:00~18:00

休館日：5月1日(水)

入場料：無料 (関連イベントがございますので裏面をご参照ください。)

主催：ギャラリー灰月 re<un | リアン



かつて松本が絹の産業で栄えていた頃の貴重な歴史を知る本郷織物工房。当時の佇まいがそのまま残る工房は、どこか懐かしい空気が漂い、時を遡ったような感覚に陥ります。

工房の三代目である本郷孝文先生は25歳で染織の道に入り、これまでに美しい作品を数多く生み出してきました。その手仕事には積み重ねられてきた技と美を感じ、作品を手にした瞬間に人は言葉を失います。

「本郷孝文」という染織家が絶え間なく挑み続けてきた経験と、美しいものをつくり出そうとする深い思考の積み重ねが「着物」という形となって現れたとき、それは美しいメロディが心に響いてくるかのようです。

実用の着物として着心地を大切に制作されてきた本郷先生の着物は、それを身にまとう人がいることによって完成し、その人と共に年月を経て手仕事は生き続けます。

美しい手仕事の集積がいつまでも引き継がれることを願い、本郷先生の仕事をご紹介します。



## 染織作家 本郷孝文 Takayuki Hongo

1944年長野県松本市生まれ。  
大学進学とともに映画映像の世界に身を投じる。  
25歳のときに実家に戻り、織の世界に入る。  
実家は三代続く機屋。民藝運動の創始者、柳宗悦氏の甥、  
染織界の大家柳悦博氏を師と仰ぐ。

### トークショー 「本郷孝文と美しい手仕事の集積」

古くから絹産業で栄えた松本市は、かつては養蚕業から始まり、染めや織りを専門とする工房が多くあり職人がいました。しかし、日本人の生活様式の変化と共に着物文化は衰退し、工業化した合成繊維の普及などにより、丁寧な手仕事の継承は困難を極め、衰退傾向にあります。

本郷先生が織物とともに紡いできた55年間の年月を振り返ると共に、美しい手仕事について、そして次の担い手についてお話を伺います。

日時 | 4月29日(月) 11:00~12:00

定員 | 30名

会場 | 高美屋文庫 松本市中央2丁目2-6 高美書店ビル 中2階

予約 | 右記QRコードのフォームから

参加費 | 1,000円

または下記メール・電話でお申し込みください。

お支払い方法 | 当日現金でお支払いください。



トークショー予約

※トークショーはご予約が必要です。

※定員30名以上のお申し込みがあった場合は先着順とさせていただきます。

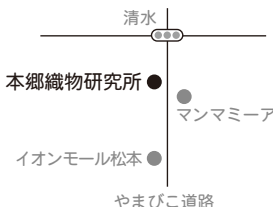
### オープンアトリエ 「染織家の工房を訪ねる」

多くの染織家を育て世に送り出してきた工房には、大切に受け継ぎ使い続けられてきた機織り機や、手直しされた道具たちが静かに佇んでいます。歴史ある工房をご見学いただき、本郷先生にも直接お話を伺うことができます。ぜひ足をお運びください。

会場 | 本郷織物研究所 松本市清水1丁目1-23

入場料 | 1,000円

お支払い方法 | 当日会場にて現金でお支払いください。



#### ■機織り体験会■

本郷先生が使用している機織り機で、機織りをご体験いただけます。

※オープンアトリエは、予約不要です。ご自由にご入場いただけます。

主催 **gallery kaigetsu**  
ギャルリ灰月  
文化・芸術による学びの場をつくる  
re<un | リアン

トークショーのお申し込み・お問い合わせはこちらから

メール | reun.matsumoto@gmail.com 電話 | 090-7010-9900(伏見)

展覧会ホームページ <https://hongotakayuki.studio.site>



展覧会HP